

6月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今月はミニ、中学校、高校の試合が目白押しに開催された。楽しみは教え子たちの育てたチームがどのような戦いをするか、クリニック等で教えさせていただいた選手たちがどのくらい成長しているか、そして番狂わせはあるのかだった。試合会場は身が引き締まる。「めんどくさい」の気持ちを断ち切るために「困難に立ち向かう」ことを意識した6月。思い出させてくれる場所は、やはり体育館、アリーナだ。

1・BS・NHKテレビ番組『知恵泉』から

◆「人生にとって大切なものは、逆境とよき友である」〈ロケット博士・糸川英夫〉

現役時代は求めなくても試練や逆境は日常茶飯事だったが、今は自ら「ヘラクレスの選択(困難への挑戦)」をしなければ逆境も良き友もやって来ない。防御より攻撃あるのみ。

2・読書から

◆「セカンドチャンスこそ勝敗の決め手になる。あきらめないで最後まで粘り強く戦っていると、何かのきっかけでチャンスが訪れることがある。最後まであきらめないという姿勢こそ、チャンスを見つける最高の方法である」〈雑誌『コーチングクリニック』〉

前半で勝負が決したかのように思えたゲームでも、後半相手が突然こけてくれることがある。あきらめないでよかったと思った瞬間である。人生何事も1回でうまくいくことはない。ほとんど2,3回目でラッキー。もう一息、もう一息、さらにもう一息……。

◆「死を恐れているかぎり、人間は何ものをも把握することはできない。死を恐れぬ者はすべてを所有する。もし苦痛というものがなかったら、人間は自分の限界を知らず、また自分自身をも知ることはできぬであろう」〈トルストイ『戦争と平和』〉

戦争によって理不尽な死と向き合いながらひるむことなく生きる人々の姿を自分自身に投影させる。私はこのような恐怖と苦痛に耐えられるのだろうか。試練の時は徐々に近づきつつある。それまで残された世界文学、日本文学、人類の知的遺産を読み漁ろう。

3・新聞等のコラムから

◆「年齢は単なる数字。僕は若者の気分だ」〈クリスチャン・ロナウド〉

サッカー欧州CLで連覇を果たしたリアル・マドリードのロナウドのコメント。32歳ベテランの域に入りながら肉体の衰えとは無縁らしい。私の心境もまったく同じなのだが実力がともなわない。2歳孫娘のランニングに追いつくのがやっと、「私は幼児の気分だ」。

◆「与えられた時間を、病気の色だけに支配されることはやめました」〈小林麻央さん〉

乳がんで34歳でなくなった小林さんのブログでの言葉。国民2人に1人がガンになる時代である。改めて一度きりの人生、なりたい自分を目指して自分らしく生きたい。

4・その他

「TEAMに“I”はない。VICTORYに“I”はある」〈高体連バスケットボール会津地区大会閉会式、会長代理不肖講評〉

マイケルジョーダンの言葉である。チームにわがままな個人はいらない。個人が弱いからチームでカバーすることもあるが、畢竟個人が弱くは強いチームはできない。一人で困難を打開する個の育成が必要。映画『七人の侍』に本物のチームワークのヒントが。